

蔵出しお宝ニュース

— 第 51 号 —

三原市歴史民俗資料館では、所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。本紙では、資料館内で永らく眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と行事の案内・紹介などを随時行って参ります。

“最後の大名” あさのながこと 浅野長勲 へんがく の扁額 見つかる



今回見つかった扁額



浅野長勲（写真中央）が大正9（1920）年に開催された「浅野忠吉公三原入城300年記念祭」の折に、三原を訪れた際の古写真

このたび、劣化が激しかった資料館1階事務室の床のタイルを張り替えました。

それに伴い、事務室の備品を搬出しております際に、広島藩主・浅野長勲の扁額が見つかりました。

浅野長勲〔天保13（1842）年～昭和12（1937）年〕は大名、政治家、外交官、実業家、社会事業家などとして活躍しました。

明治以降は、若かりし頃体験した大名の暮らしぶりを講演することもありました。『三田村鳶魚全集』の中に「浅野老侯のお話」として掲載されています。芝居やドラマで見ると、豪華な様子ではなく、なかなか気骨の折れる生活であったことがまとめられています。長勲が語った内容は、江戸期における大名の日常を調査する上で一級資料と言えます。

長勲は長生きをしたため、俗に“最後の大名”として知られています。曾祖父にあたる沢三石の影響もあり、書には関心があったようです。

今回見つかった扁額には「弘道達志（弘道 こうどう 志 こころざし に達す）」と書かれています。

秋に開催の「蔵出しお宝展」で公開したいと考えています。

第4回 私たちのやっさ踊り展 無事閉幕

7月24日(金)から、8月9日(日)まで三原市民ギャラリー・ギャラリー1で開催してまいりました「第4回 私たちのやっさ踊り展」が無事閉幕いたしました。

今年は昭和45(1970)年に開催された日本万国博覧会(大阪万博)へ、やっさ踊りが広島県代表の伝統芸能として出演して45年が経ちましたので、万博に向けて行われた踊り手のオーディション風景や練習の様子を撮影した古写真などを初披露いたしました。

また、三原市と親善都市交流を続けている神奈川県湯河原町に三原から伝わり、湯河原風にアレンジされた湯河原やっさに関係した資料も展示いたしました。

8月2日(日)には、多目的ホールで協賛行事として「やっさ踊り唄・^{じかた}地方発表会」が、三原やっさ踊り振興協議会主催で行われました。

昨年までは唄のみの発表でしたが、三味線や太鼓などの地方の発表もさせていただきたいという要望が多く、今年からは地方も発表していただきました。

三原やっさ祭りも40回を迎えましたので、三原テレビ放送株式会社が「市民総参加を目指して三原やっさ祭り誕生」というミニ番組を制作されました。この番組内で使用された古写真資料なども提供させていただきました。

おかげさまで、1272名のご来場がありました。ありがとうございました。

この企画展を通して、やっさ踊りの歴史や変遷、歴代作られたやっさグッズなど、三原の夏の代名詞とも言えるやっさ踊りを、より身近に感じていただければ幸いです。



- (上) 歴代製作されたやっさレコード
- (中) やっさ踊り唄・地方発表会
- (下) 湯河原やっさ踊り関係資料

発行 平成27(2015)年 8月31日

〒723-0015 三原市円一町二丁目3番2号

三原市歴史民俗資料館

TEL 0848-62-5595

※本冊子に掲載の写真などは、許可なく転用なされないようお願い申し上げます。